

## 磯における動物学習会について

伊藤 十治

1. 期 日： 昭和51年7月29日(木)～30日(金) 1泊2日
2. 場 所： 福井市たか巢海岸
3. 講 師： 日本甲殻類学会会長、理博、 酒井 恒先生
4. 参加者： 成和中学校 10名；光陽中学校 10名；足羽中学校 15名；家族 9名  
博物館関係者 8名 計 52名
5. 宿 舎： 福井市たか巢和布 宮下村市氏方(民宿 鷹汐)  
(宿泊料) 1泊3食で 3,100円
6. 日 程： (第1日)開講式 12.30～1.00 (第2日) 起床 6.00  
出発 1.10 現地指導 1.30～4.30 朝食 7.00～7.30 出発 8.00  
帰宿 5.00 資料整理 5.00～6.00 現地指導 8.30～10.30  
夕食 6.00～7.00 現地にて閉講式 10.30  
同定 7.00～8.30 帰宿 11.00 昼食 12.00  
講話 8.30～9.30 昼食後解散  
消灯 10.30

7. 会 費： 参加費 200円

最初に、酒井恒先生に毎度のことではあるが心から厚く御礼を申し上げます。

**スライドによる学習内容** (紙面の都合でその一例を示す)

- ・ 沖なわのサンゴ礁(テーブルサンゴなど)
  - ・ さしわたし1mもあって、足でもいれればはさまれてしまうシャコガイ
  - ・ はさみが赤く、甲らにはいろいろの模様があるベニシオマネキの♂
  - ・ マングローブの下で、ダンスをしているカニ、民謡にまで歌われているヤクジャーマガニ
- ニ
- ・ 夫婦なかよしのアミメサンゴガニ
  - ・ 甲らの模様がいろいろなベニオオギガニ

### **採 集 物**

棘皮動物……………マナマコ、パフンウニ、ヤツデヒトデ、クモヒトデ、イトマキヒトデ

触手動物……………コブコケムシ

星口動物……………クロホシムシ

節足動物……………アカイソガニ、ヒライソガニ、イソガニ、トガリオオギガニ、ヨツバモガニ、ツノダンヤワラガニ、ヒメソバガラガニ、ケフサイソガニ、イボトゲガニ、

ホンヤドカリ、イソカニダマシ、モエビ、ハルマンズナモグリ、スジエビモドキ、フナムシ、ウミミズムシ、ホソヘラムシ、ニホンコツブムシ、ウミナナフシ、ワレカラ sp、ヨコエビ sp、ウミグモ sp

**軟体動物**……………ヤスリヒザラガイ、ウスヒザラガイ、ケハダヒザラガイ、マダラウミウシ、アオウミウシ、シロウミウシ、ミノウミウシ、クロヘリアメフラシ、イシゴロモ、マツムシガイ、ムギガイ、レイシガイ、メダカラガイ、カニモリガイ、スガイ、ヒメクボガイ、コシダカガンガラ、クボガイ、インダタミガイ、チグサガイ、ヒバリガイ、エガイ、トマヤガイ、オトメガサガイ、トコブシ

**環形動物**……………ケヤリ、フサゴガイ、クマノアシツキ、ゴカイ

**扁形動物**……………ツノヒラムシ

**腔腸動物**……………ヨロイイソギンチャク

**海綿動物**……………ムラサキカイメン、クロイソカイメン

9の動物門、62種で、今までの採集物から比較すると非常に収獲が少ない。しかも、追加すべき種類が全くない。この学習会が、本海岸で同月頃するのが今回で6回目、そして5年前から続けている関係で常習者が僅少になったこと、学習会での採集よりも海水浴を楽しむ参加者が多くなったような感じを受けたこと、家族ぐるみの楽しい雰囲気での学習会であったことなどが採集物が少なくなった理由だろうか？ 博物館主催の学習会ならば一面ではそれで充分意義が果せるかも知れないが、他面では学問的にも貢献できる資料をつくる必要があると信ずる、こういった複雑な感想をもつ学習会であった。

## 思い出すままに

伊藤 十治

今年は、博物館創立25周年になるという、創立関係者を始め今日まで多くの方々の御努力、御精進の労を多とし敬意を払いたい。思えば昭和26年、復興博覧会を期して建設したという（福井県博物同好会会報 創刊号による）。また、この会報も今年で第24号になる。現館長と筆者とが創刊号より現在号まで執筆し続けている。筆者はその当時、大学生であった。また、博物館しょくたくまたは協力員となったのが昭和30年、今日にいたるまで何もできないのに役目だけいただいている。誠にはずかしい限りである。ただ、昭和27年8月17日～18日に、第1回海産動物採集会が実施されてから今年で26回目になる。これだけは筆者のみが1回の休みなく参加、その上世話係をさせてもらっている。この採集会の講師を願っている酒井恒先生には大へんお世話になり博物館25周年記念としては、第1にあげなくてはならない先生である。

筆者が関係した部分の思い出を記録にとどめたい。